

行政視察報告書

令和8年8月7日

視察委員会名	教育民生委員会		
報告書作成者	副委員長 森 英之		
出席者氏名	委員長 森 美和子 副委員長 森 英之		
	委 員 草川 卓也 福沢 美由紀 櫻井 清蔵		
欠席者氏名	委 員 中島 雅代		
所管職員 氏 名	なし	随行職員氏名	議会事務局 主幹 西口 幸伸

視 察 日	視 察 先	視 察 目 的
8月4日	1 愛知県大府市	「健康都市おおぶ」の各種取組について
	2 愛知県愛西市	プロギング愛西について

令和 8 年 8 月 4 日に愛知県大府市、愛西市を訪問し、行政視察を実施したので、その概要を次のとおり報告する。

大府市においては、「『健康都市おおぶ』みんなの健康づくり推進プラン 2020—2030」に基づく各種取組のうち大府市健康プログラム、まちの保健室及び国民健康保険における検診受診率について、また愛西市では、市と市民活動団体が協働するプロギング愛西の取組について、視察を実施した。

1 愛知県大府市

(1) 「健康都市おおぶ」の各種取組について

大府市は、昭和 45 年の総合計画において、将来像に「健康都市」を掲げて以来、50 年以上にわたり健康都市づくりに取り組む「元祖・健康都市」であり、WHO 健康都市連合への加盟や条例の制定を進めてきた。令和 3 年には、ウォーキング環境の整備などの運動分野の取組が評価され、WHO からベストプラクティス賞を受賞している。現在の第 6 次総合計画では「サステナブル健康都市おおぶ」を掲げ、人の健康にとどまらず、まちや未来の健康も目指している。

推進体制としては、総合計画を所管する企画広報戦略課があらゆる分野に健康の視点を取り入れる調整を担い、健康未来推進課が市民の健康状態のモニタリングと事業の総合調整を行っている。「『健康都市おおぶ』みんなの健康づくり推進プラン 2020—2030」に掲げる指標は、国保データベース（KDB）や隔年で実施する市民意識調査などを活用して毎年度進捗を把握し、外部委員で構成する「『健康都市おおぶ』推進会議」において取組状況や評価結果を報告し、施策の改善・見直しにつなげている。重点指標である健康寿命については、平均寿命との差（男性 1.7 年、女性 3.6 年）をゼロにすることを目標としている。一方、働く世代のメタボリックシンドローム該当率が全国平均より高いことが課題であり、子どもの近視予防プロジェクト（ロート製薬、名古屋大学等との 4 者連携）や、商工会議所・協会けんぽと連携した健康経営の推進（認定申請料の一部補助等）に注力している。これらの事業は企業等との連携により市の支出をほとんど伴わずに実施しており、多様な主体と連携して取り組む風土が同市の強みとなっている。

ア 大府市健康プログラム

大府市健康プログラムは、ウォーキングを中心とした健康づくり事業であり、参加者数は令和 5 年度 708 人、令和 6 年度 812 人、令和 7 年度 644 人と推移している。参加者の年代は 40 代が最も多く、性別との掛け合わせでは 40 代男性が最多、次いで 40 代女性となっており、働く世代の参加が中心となっている。参加者増加の工夫として、Web サイト等での広報に加え、商工会議所を通じて市内企業へメール

等で周知を行っている。参加後のアンケートでは、74%が今後も運動やスポーツを定期的に行いたいと回答しており、高い継続意向が確認されている。なお、健康マイレージアプリによるポイント付与は実施していない。働く世代へのアプローチとしては、休日イベントよりも企業への出張測定会（体組成測定、血圧測定等）が効果的であるとの判断から、企業を通じた健康経営の視点で健康づくりを推進している。

イ まちの保健室

まちの保健室は、令和8年11月に開館する「大府市健康づくり総合支援施設」（1階が健康づくり身体活動支援センター、2階が長期欠席の児童生徒の居場所である第二レインボーハウスの複合施設）内に設置される、誰でも気軽に専門職に相談できる場である。正職の保健師2名を常駐させるほか、会計年度任用職員の保健師も任用する予定であり、理学療法士、健康運動指導士、公認心理師、管理栄養士等の専門職も配置される。健診等の行政機能を担う保健センターとは役割を分担し、まちの保健室では予約制で、じっくりと個別性の高い相談に対応し、身体的な不調やメンタル面、育児など幅広い相談から運動講座等へつなげていく。集団への参加にハードルを感じる人にも、個別相談をきっかけに徐々に参加を促すことを狙いとしており、運営は市の直営で実施予定である。また、複合施設とすることで多世代が交流できる効果も期待されている。

ウ 国民健康保険における健診受診率について

大府市の特定健診受診率は52.7%、特定保健指導実施率は56.8%と、いずれも県平均を大きく上回っている。受診勧奨としては、個別通知を4月・5月・9月・10月・12月の計5回実施しており、4月と9月は受診券（問診票）を対象者全員へ送付、10月はナッジ理論を活用した案内、5月と12月はハガキによる勧奨を行っている。健診は集団健診と個別健診を実施しており、集団健診は毎年6月から7月にかけて市内の公民館等を巡回して予約不要で受診でき、個別健診は市内29医療機関で受診可能である。費用はいずれも無料で、胸部レントゲン撮影（結核・肺がん検診）を同日に実施しているほか、詳細項目である心電図・貧血・クレアチニン検査を全員に実施している。特定保健指導は健診会場や個別健診実施医療機関で初回面接を無料で実施している。費用負担がないこと、受診の機会が多くあること、受診のきっかけとなる通知が頻繁にあることが受診率の向上につながっていると分析されている。未受診者対策としては、10月と12月に家庭訪問を実施しており、令和7年度は不定期受診者、糖尿病の治療歴があるがレセプトのない者、過去5年間未受診の者などを対象としている。

【所 感】

- ・健康都市として50年超とその先駆的取組が市の姿勢に現れ、市民に浸透しているという実感を持った。
- ・産官学との連携、具体的なターゲットへのアクションの仕方など見習う点が多いと感じた。
- ・財政力指数1.16の不交付団体でありながら、健康経営や近視予防はほぼ費用ゼロで企業連携により実施している。「予算がなくてもやりたいことは実現できる」という言葉が、財政規模を言い訳にできないと感じた。
- ・検診率の高さについて、予約しなくてもできる、身近な施設で受けることができる環境整備がなされておりお知らせの仕方などもとても参考になるものであった。
- ・特定健診受診率52.7%、保健指導実施率56.8%という県平均を大きく上回る数字も、費用無料・予約不要の巡回検診・年5回の個別通知という地道な設計の積み上げであると感じた。



2 愛知県愛西市

(1) プロギング愛西について

プロギングとは、スウェーデン語の「ゴミ拾い (P l o c k a u p p)」と「ジョギング (J o g g i n g)」を掛け合わせたフィットネスであり、世界100か国以上で開催され、国内でも90以上の団体が活動している。プロギングは、ゴミを拾う際のしゃがむ動作があるため、ジョギングと比較して1.2倍の運動効果があるとされ、健康に良いとされる。

プロギング愛西は、行政の仕掛けではなく、市民活動団体の自発的な申請を市が市民活動支援公募事業補助金（上限10万円、補助率5分の4、最大3年間）により採択したものであり、市の第3次総合計画に掲げる「市民が活躍できるまち」の実現に向けた市民活動支援の一環として位置付けられている。審査には保健福祉部長なども加わり、将来の自立に向けた考え方も確認した上で総合的に判断している。市はこれまで16団体を採択し、約7割が補助終了後も活動を継続している。

活動は「ゴミ拾いついでにフィットネス」を合言葉に、怒りではなく「拾う機会をくれてありがとう」というポジティブな発想で楽しむことを大切にしている。1回の活動は1時間程度（自己紹介5～10分、活動40分、最後に分別と計測）で、夏場は熱中症対策として朝7時前後の早い時間帯に実施している。参加者は毎回10から15名程度で、10代から60代まで幅広く、特に親子連れが多い。安全対策として歩道のある経路を選定し、大人が前後に付くほか、プロギングジャパンのイベント保険に加入している。スターバックスや小中学校とも連携しており、地域コミュニティの形成にもつながっている。

【所 感】

- ・健康づくりの視点で捉えても効果的な取組であると感じた。しかし、市の事業として行うよりも、市民団体の広がりの中で、市も後援できるようなものとなると感じた。
- ・本市では、国道、高速道路のインターチェンジ、パーキング等でポイ捨てが多いが、参加者、特に子どもの安全管理が最大の課題となると思われる。
- ・プロギングは健康だけでなく環境対策ともなり一石二鳥の活動である。こどもと大人と一緒に活動できるのは良いと感じた。
- ・楽しんで身体を動かすことが、そのまま健康にも、まちの環境にも、地域のつながりにもいい。「良いことだからやりましょう」ではなく、「楽しいから集まったら、結果として良いことになっていた」という順番こそ、本市が健康づくりや地域活動を広げるうえで持ち帰るべきものである。

